

輝いている人を紹介します

まちのキラリ

INTERVIEW

YAMAASA
RYUNOSUKE

球界を代表する捕手へ
日々成長していきたい

聖

光学院の扇の要として、聖光史上初の夏の甲子園ベスト4、国体準優勝へ導く活躍をした山浅龍之介捕手。10月20日、聖光学院から8人目となるプロ野球選手となった。厳しいプロの世界に飛び込む山浅選手に伺った。

——改めて中日からドラフト4位で指名され、どんなお気持ちですか。

指名され厳しい世界に入るので、うれしいというより、プロの環境にどう入って行くか緊張感を持って、勝負するんだという気持ちになっています。

——指名された後、ご家族とどんな話をされましたか。

ここまで、楽天リトルシニアや聖光学院と野球のためについてきてくれてありがとうと話しました。親からは「どこでも応援しているよ」と励まされました。自分一人ではここまで来れなかったので両親に感謝しています。

——聖光学院の3年間を振り返っていかがですか。

野球の技術はもちろんですが、一人の人間としてしっかりと成長することができたと思います。物事の考え方や捉え方などを勉強できました。監督やスタッフ陣が話す一つ一つの言葉が身に染みていて、自分の人生を変えた一言がたくさんあるほどです。

——伊達市の印象や、思い出はどうですか。

秋田も自然豊かなところですが、伊達も自然が豊かだといところだな、秋田に似ているなと思いました。伊達の一夏の思い出は雪かきです。実は秋田に住んでいた時、朝起きると重機による雪かきが終わっていて、雪かきをした記憶がないんです笑。伊達の冬は、朝起きたらまずは雪かきするのが一番の思い出ですね笑。雪かきで、寮の近くの高齢者の方の庭先も行っていました、いつも「ありがとうね、応援しているよ」と声をかけて

てくれて温かい人が多いと感じています。

——聖光ブルーからドラゴンズブルー、名前には龍の字がありますが、何かご縁を感じますか。

私の名前が「龍」なので、一番ご縁のある球団だと感じています。中日の帽子をかぶった時に聖光ブルーより濃い色だったので、さらに野球が濃くなるのだと思いました。

——山浅捕手のセールポイントはどこですか。

スローイング、キャッチング、ブロックキング、インサイドワーク（※）です。試合を支配するために気を遣っている、そこには自信を持っています。

——プロではどんな選手を目指していますか。

球界を代表するキャッチャーになることです。そのためにも、中日の不動のレギュラー捕手となって、

聖光学院 / 野球部 2022 中日ドラゴンズ ドラフト4位

やまあさ りゅうのすけ

山浅龍之介

秋田県由利本荘市出身。2004年生まれ。小学校2年生から軟式野球を始め、6年生の時に楽天ジュニア入りを果たす。中学校から宮城県に移り、東北楽天リトルシニアを経て、聖光学院に入学。2年生の春から正捕手の座をつかむ。二塁送球1.8秒台の強肩と正確なスローイングに加え、3年生から打者の中軸として春の選抜、夏の甲子園ベスト4、国体準優勝に貢献した。2022年プロ野球ドラフト会議で、中日からドラフト4位で指名された。



チームを負けさせないキャッチャーを目指して日々成長していきたいです。

——最後に伊達市民へメッセージをお願いします。

いつも温かな声をかけてくださったことに感謝しています。引き続き聖光学院の応援をお願いします。私は早く一軍に上がって活躍できるようにがんばりますので、ご声援をよろしく願います。

山浅捕手の

活躍に期待！

※インサイドワーク：頭脳プレーのことで、野球ではリードや配球を指します。